

## あいさつ プロジェクトの成果を生かした進展に期待

鎌田 俊彦（文部科学省 研究開発局 地震・防災研究課長）



冒頭あいさつする鎌田氏

シンポジウムの開会に先立ってあいさつした文部科学省地震・防災研究課長の鎌田俊彦氏は、東日本大震災から10年が経過し、また首都圏レジリエンスプロジェクトとして最終年度を迎えた2021年を振り返り、「首都圏で10月に最大震度5強の地震が発生したほか、東京都において首都直下地震の被害想定を見直す方針が示されるなど、災害に対する社会的関心が高まって」いることを指摘。そうした中で「本プロジェクトのこれまでの取り組みを多くの皆さま方と共有していくことはとても重要なこと」との考えを示しました。

また、鎌田氏は、同プロジェクトのこれまでの活動によって「国民の防災行動等に役立つ社会の実現が少しずつ進みつつある」との認識を示した上で、9月1日のデジタル庁発足など、政府によるデジタル社会の実現に向けた政策推進の動きに言及。防災分野でも「デジタル化に対応した災害対応のDX化や迅速な防災情報の共有など、本プロジェクトの成果を生かした進展が期待される」と述べました。

最後に鎌田氏は、この日のシンポジウムが「これまでの取り組みと今後のビジョンを共有する機会として、首都圏のみならず、わが国全体のレジリエンス向上につながることに期待を示しました。